



# 町民文芸

## 只見短歌会 令和八年四月詠草

我三步孫は二歩なり散歩には歩調合はせてくるる優しさ  
目黒 富子

戦場のニュースに心痛ましき桜開花の映像を見る  
関谷登美子

春光の桜のもとを走る息子は風にまぎれて笑みこぼれたり  
立花 奏音

ファンヒーターに駆け寄りスイッチONにする孫の食べしはアイスクリーム  
新国由紀子

朝食に卵を割れば黄身二ついいことあるかとメール届きぬ  
渡部ヨリ子

## 只見俳句会 四月定例会

春麗ら足受け止める苔布団  
尚 幸

踏青の一步を土が押し返す  
故(目黒レイ) 礼

春日の崖の起伏の荒々し

修 一

坪山に屏風絵のごと椿燃ゆ  
区会後の懇親会や春日和

瀬戸内のひねもす波に風ひかる  
みちのくや古城の桜時止まる  
信

都

終活は進まぬままに花便り  
有るがまま無いがままなり春の波

ノカンゾウ若葉すうしな献立し  
新聞を広げ日永や義母百寿  
一 恵

花冷えや散り行く姿も哀れなり  
人生の終着駅に我近し  
睦 子

